平成 29 年 11 月 27 日

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁　九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成２９年１１月発行　　No.５１号

サンダンカ

世界遺産登録を目指す「ＩＵＣＮが西表島を視察」

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録の審査に向けたＩＵＣＮ（国際自然保護連合）の現地調査が、10 月１１日から２０日（１０日間）の日程で実施されました。

西表島については、17 日から１９日(3 日間）の日程で、仲間川流域、後良川等の国有林を中心に、マングローブ林及び森林生態系、希少種の動植物並びに外来種駆除等について、関係機関等からの説明や地元関係者等の意見交換会などが行われました。

調査期間中は、雨や台風の影響により、日程を一部変更しましたが、大きな問題や怪我もなく無事終了することができました。

特に後良川でのカヤックについては、西表島のマングローブ林や渓流での自然体験等を満喫するなど、終始和やかな雰囲気の中で所定の日程を終了しました。

今後は、世界自然遺産の登録に向け、ＩＵＣＮからの様々な要望等に対する対応等を関係機関と連携を図りながら、世界自然遺産の登録に向け、取り組んでいくこととしています。

ＩＵＣＮ視察の様子

ＪＩＣＡ研修生を受け入れ

国際協力機構（JICA）北海道国際センター（帯広）よる「地域住民の参加による持続的な森林管理」コースの研修生を１１月７日～8 日の２日間受け入れました。

１日目は、午後から合同庁舎会議室において、研修生１６名（12 ヶ国）に対し、「西表島の森林・生物多様性と保全管理」について講話を行いました。

質疑応答では、外来種の駆除や森林環境教育の支援等について活発な意見や質疑がありました。

熱心に説明を受ける研修生

２日目は、石垣島から西表島へ移動し、仲間川の遊覧船に乗船。マングローブ林やサキシマスオウノキ（森の巨人たち百選）を視察した後、大富展望所から日本一大きなマングローブ群落を観賞、その後、竹富町交流センターに移動し、保護林及び国有林の境界等について現地で説明を行った後、海岸林自然再生試験地等を視察しました。

質疑応答では、境界の保全管理や外来種駆除、森林再生、地元等との連携などの質問が多く出され、有意義な研修となりました。

今回の研修で得たものが、帰国後の彼らの活動に寄与することを期待します。

サキシマスオウノキの前で記念撮影

原田九州森林管理局長が西表島を視察

１１月２０日から２１日にかけて、原田九州森林管理局長が世界遺産登録に向けた西表島の現況を視察されました。
当日は、西大桝竹富町長との林政対談を終え当センターへ。その後、石垣港から高速船で一路西表島へ向かいました。
西表島に到着後、観光客が多く訪れる浦内川を観光船に乗り軍艦岩まで行き、そこから西表横断道の約２.５ｋｍを汗をかきかき、目的のカンピレーの滝に到着。自然の雄大さを肌で感じた１日目でした。
２日目は、仲間川の大富乗船場から乗船し、「森の巨人たち百選」に指定されている推定樹齢400年の「サキシマスオウノキ」を眺め、その巨木の素晴らしさと板根の大きさに感動されました。
その後、仲間川のマングローブ林が一望できる仲間川展望所へと移動し、マングローブ林の分布状況やマングローブ林の生態系等について、当センター職員から説明がありました。
次に「森林総研西表熱帯林育種技術園」では、楠城熱帯林育種研究室長より展示林内の樹木について説明を受けた後、「環境省西表自然保護官事務所」移動し、杉本自然保護官より希少野生動植物種であるイリオモテヤマネコの生息・生育状況等の説明を受け、最後に西表島を後にされました。

マリュウドの滝をバックに

イリオモテヤマネコの説明を受ける原田局長

平成 29 年度 森林・林業交流発表大会

10 月 17・18 日の両日に渡り、九州林政連絡協議会が主催する、平成２９年度森林・林業の技術交流発表大会が熊本市において開催され、九州地域各県の森林・林業関係者や森林・林業を学ぶ高校生、局・署の職員等、延べ約５00人の参加がありました。
当発表大会は、「森林技術部門」「森林保全、森林ふれあい部門」の2部門が二つの会場に分かれ、一般の部では、30課題の発表及び高校生の8課題について発表が行われました。
当センターからは、古閑自然再生指導官が「トクサバモクマオウ（外来種）の効率的・効果的な駆除対策について」と題し、西表島の浦内川のマングローブ林内にトクサバモクマオウの侵入が見られ、陸地化が進行することで、マングローブ林の生育を妨げるとともに生態系への影響が危惧されることから、試験地を設定し巻き枯らし駆除を行いました。

発表する古閑指導官

自然に近いかたちで、トクサバモクマオウを風化させ、マングローブ林の生育や様々な生き物の生息・生育に影響を与えることなく、自然景観に配慮した駆除手法として、取り組みを発表しました。
今後も当センターが取り組んでいる各種モニタリング調査等について、各種研究会等で発表するなど情報発信に努めて参りたいと考えています。

絶滅危惧種タシロマメの生育調査を実施

タシロマメは、環境省のレッドデータリストの絶滅危惧(きぐ)1A 類に指定されており、現在は、石垣島の川平湾周辺で２カ所、西表島東部の１カ所で生育が確認されています。

タシロマメは、マメ科の樹木で、海岸や河口近くの低地に生え、高さが１５メートル位になる常緑の高木で、材は堅く、シロアリの害にも強いため建築材や家具材として、古くから利用されたことから明治初期に激減しました。

平成 20 年から実施している「仲間川上流のタシロマメ生育調査」について、10 月 27 日に生育状況等の調査を実施しました。

今回の調査の結果、前回の平成 24 年（5 年前）の調査より、稚樹の発生も多く確認され、順調に生育していました。

順調に生育しているタシロマメ

タシロマメの結実

名前の由来は、「田代安定（たしろ・あんてい、鹿児島県出身で昭和初期まで活躍した植物学者）による」と言われています。

西表島には、なんでんおるね？

希少種タシロマメの調査を４人で実施した。
なぜか、今回、調査に二日続けて行くこととなった。

蚊がおるねえ～、なんかチクチクせん！

露出していた箇所には、蚊が刺したように赤い斑点がいっ～ぱい。
４人全員が、顔、首筋、手首など数十箇所やられっちまった・・・　！

二日目の調査を終え、ある先輩が「それは“ヤマンギ”じゃが、早よ病院に行ったがえ～よ」言った。

みんな一目散に病院へ急行、かゆい、かゆいと言いつつ、どうしようもなく赤く腫れ上がっていた傷口を掻かずにこらえていた。

”ヤマンギ”とは大型の毛虫で、地元では、毒を持つハブよりも恐れられている。
この“ヤマンギ”の姿を一度も見ることなく、数日もの間、かゆみとのつらい戦いであった。

ちょうどその間、息子の結婚式とかさなり、赤い斑点から赤紫茶色と色が変わり目立つ中でのかゆい、かゆい式への参加であった。

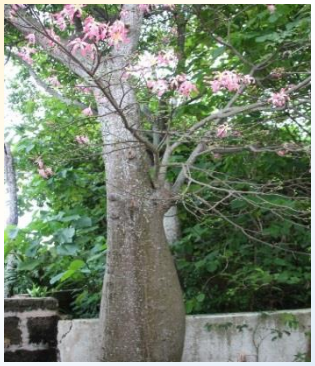
西表島の樹木

トックリキワタ

バンヤ科
（アオキ科とも）

分　　布	南アメリカ中南部 （ブラジル、アルゼンチン等）
葉 の 形	被 針 形
葉 の 縁	鋸　　歯
葉 の 先	鋭　　形
葉の付方	互　　生
葉の基部	くさび形
花･萼 色	桃　　色

ブラジル中南部、アルゼンチン原産の高さ 20m くらいになる落葉性の高木で、幹がトックリ状になり表面に棘があるのが特徴です。
落葉した枝に径 12-15 ㎝ほどの大きな花を咲かせ、一面が桃色になります。
街路樹として多く利用されています。



サンダンカ　「アカネ科」 *Ixora chinensis* Lam

橙色の長い管をもった小花の集まりで、管の先が４つの裂片になり、先が丸みをおびています。
デイゴ、オオゴチョウに並んで沖縄の三大名花で、マレー半島、中国南部原産で高さ 1m くらいになる常緑の低木です。
「三段花」は沖縄でつけられた名前で、１年に３回花が咲き、花梗が三段に重なっていることからつけられた。

（園芸品種　スーパーキング）

林野庁　九州森林管理局　　西表森林生態系保全センター

〒907-0004　　沖縄県石垣市登野城 55-4　石垣地方合同庁舎内
TEL：0980-88-0747　　FAX：0980-83-7108

URL: http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm

希少種タシロマメの調査を４人で実施した。
なぜか、今回、調査に二日続けて行くこととなった。
蚊がおるねえ～、なんかチクチクせん！

露出していた箇所には、蚊が刺したように赤い斑点がいっ～ぱい。
全員が、顔、首筋、手首など数十箇所やられっちまった・・・　！

二日目の調査を終え、ある先輩が「それは “ヤマンギ”じゃが、早よ病院に行ったがえ～よ」と言った。

みんな一目散に病院へ急行、かゆい、かゆいと言いつつ、どうしようもなく赤く腫れ上がっていた傷口を掻かずにこらえていた。

”ヤマンギ”とは大型の毛虫で、地元では、毒を持つハブよりも恐れられている。
この“ヤマンギ”の姿を一度も見ることなく、数日もの間、かゆみとのつらい戦いであった。
ちょうど、その間に息子の結婚式とかさなり、赤い斑点から赤紫茶色と色が変わり目立つ中で、かゆい、かゆい式への参加でした。